

市勢の概要

1	沿 革	3
2	人口・世帯数	3
3	市域の変遷	3
4	気 候	4

1 沿 革

「太陽と緑」に象徴される宮崎市は、九州の東南部太平洋岸に位置しており、南北に36 kmにわたる海岸線を有し、太平洋に沿って流れる黒潮によって温暖な気候風土に恵まれ、美しい松の大樹海のツツ葉海浜をはじめ、亜熱帯植物の繁茂する青島や国定公園日南海岸に連なる風光は、まさに南国的色彩に富んでいる。

本市は大正13年4月1日に旧宮崎郡宮崎町、大淀町及び大宮村の廃置分合を行い、市制を施行した。当時は、面積45.15 km²、人口42,920人の田園都市であったが、その後5次にわたって周辺町村との合併が行われた。以後、着実に発展を続け、平成10年4月には中核市に移行、平成18年1月1日には、近隣の佐土原町・田野町・高岡町の3町と合併、また、平成22年3月23日には清武町と合併し、人口約40万人、面積643.67 km²の新宮崎市が誕生し、県都として、また南九州の中核都市として、教育、文化、交通等あらゆる面にわたって発展を続けている。

平成26年度には、「連携中枢都市」を宣言し、国富町及び綾町と連携協約を締結した。圏域の目指すべき将来像と、その実現に向けた取組のために平成27年度に策定した「みやざき共創都市圏ビジョン」では、本市が中心となって地域経済を力強くけん引し、定住や移住に向けた取組を推進することで、人口減少のスピードを抑えることができるよう、圏域の経済の活性化や公共サービスの確保を図ることとしている。

また、平成27年度には、地方創生に向け、宮崎市地方創生総合戦略を策定し、新たな価値を共に見出す「共創」の考え方を基本に、平成28年度以降、中長期的な展望を意識して設定した5つの重点プロジェクトに基づき、地域の特性や市民ニーズに合った実効性の高い取組を推進し、地域経済の持続的な発展を目指している。

平成29年度に、目まぐるしく変化する社会情勢や地域課題に対して、中長期的な視点を持ち、官民の協働や共創により、市政を総合的、かつ計画的に進めていくため、本市のまちづくりの指針であり、最上位の計画となる「第五次宮崎市総合計画」を策定し、平成30年度から『未来を創造する太陽都市「みやざき」』の実現に向け、取り組むこととしている。

2 人口・世帯数

区 分	人 口			世 帯 数	1世帯当り 人 員
	男	女	計		
平成30年4月1日	186,969	211,391	398,360	178,779	2.2

人口及び世帯数は、平成27年国勢調査の結果を基礎として住民基本台帳法の規定に基づき、毎月届出のあった出生、死亡、転入、転出等の数を集計して推計しています。

3 市域の変遷

年 月 日	面 積	経 緯
大正13年4月1日	45.15 km ²	市制施行（宮崎町、大淀町、大宮村）
昭和7年4月20日	61.19	穂村合併
昭和18年4月1日	87.57	赤江町合併
昭和26年3月25日	223.99	瓜生野村、倉岡村、木花村、青島村合併
昭和32年10月1日	251.58	住吉村合併
昭和38年4月1日	285.91	生目村合併
平成13年10月1日	286.99	公有水面の埋め立て
平成15年7月31日	287.07	公有水面の埋め立て
平成16年1月15日	287.08	公有水面の埋め立て
平成18年1月1日	596.79	佐土原町、田野町、高岡町合併
平成22年3月23日	644.61	清武町合併
平成26年10月1日	643.67	国土地理院による面積の算出方法の変更によるもの

4 気 候

本データは宮崎地方気象台の観測値である。

(1) 平成29年 気候数値

快 晴 日 数	平 均 気 温	降 水 量 (年 間)	日 照 時 間 (年 間)
39日	17.6	2721.5mm	2224.0時間

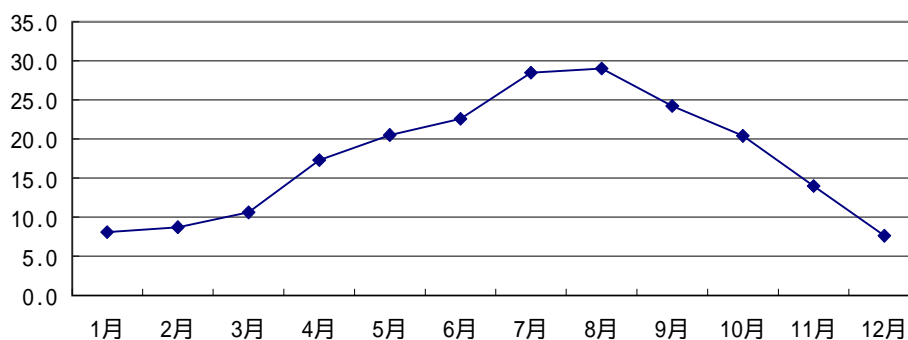
(2) 平成29年 平均気温

(単位 :)

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
8.1	8.7	10.6	17.3	20.5	22.6	28.5	29.0	24.2	20.4	14.0	7.6

年間平均気温 17.6

()



(3) 平成29年 降水量

(単位 : mm)

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
72.0	48.0	186.5	260.0	222.0	363.0	124.0	189.5	575.0	556.5	117.5	7.5

年間降水量 2721.5mm

(mm)

